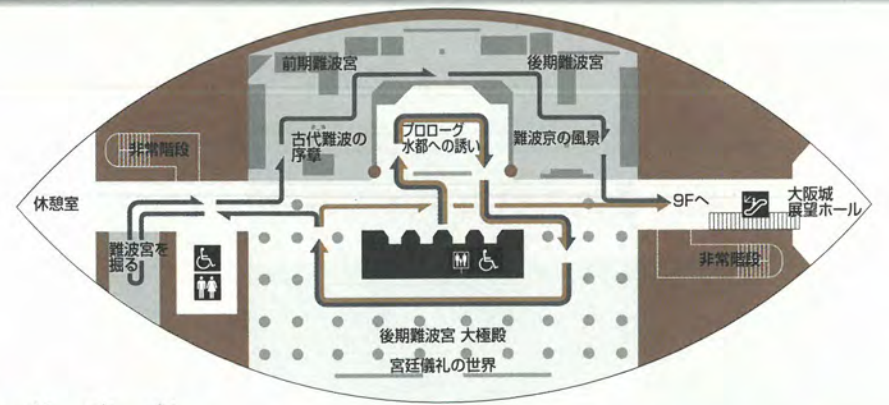


10階

こ だい (古代)



古代の大阪をのぞいてみよう!

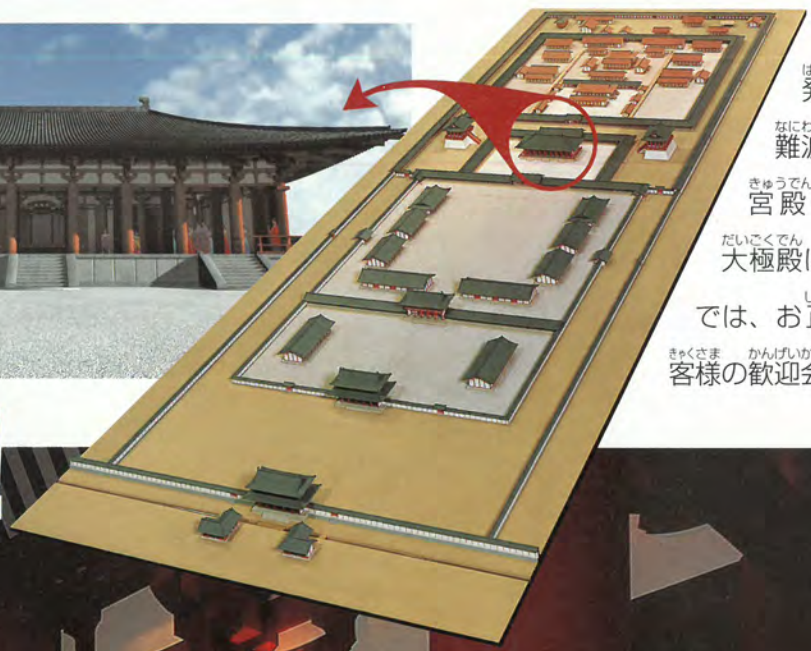
時代のようす

この階では、古代の大阪一難波について展示しています。古代の難波は、日本国内だけでなく、中国大陸や朝鮮半島などに行き来する時の交通の中心で、鑑真など中国から渡ってきた偉い僧も難波の港を利用しました。この港は5世紀ごろ(古墳時代)に作られ、たいへん栄えたそうです。また、このころから奈良時代にかけて、上町台地には国の施設がたくさん作られました。

▲高御座
国をあげての儀式の時に、天皇のための席として大極殿の中央に置かれました。



後期難波宮 大極殿
発掘調査や、その後の研究で難波宮の様子が復元されました。宮殿の中でいちばん中心となる大極殿は、中国風の建物でした。ここでは、お正月のお祝いや、外国からのお客様の歓迎会、国をあげての儀式をしました。



この階の窓から、難波宮史跡公園を見よう。

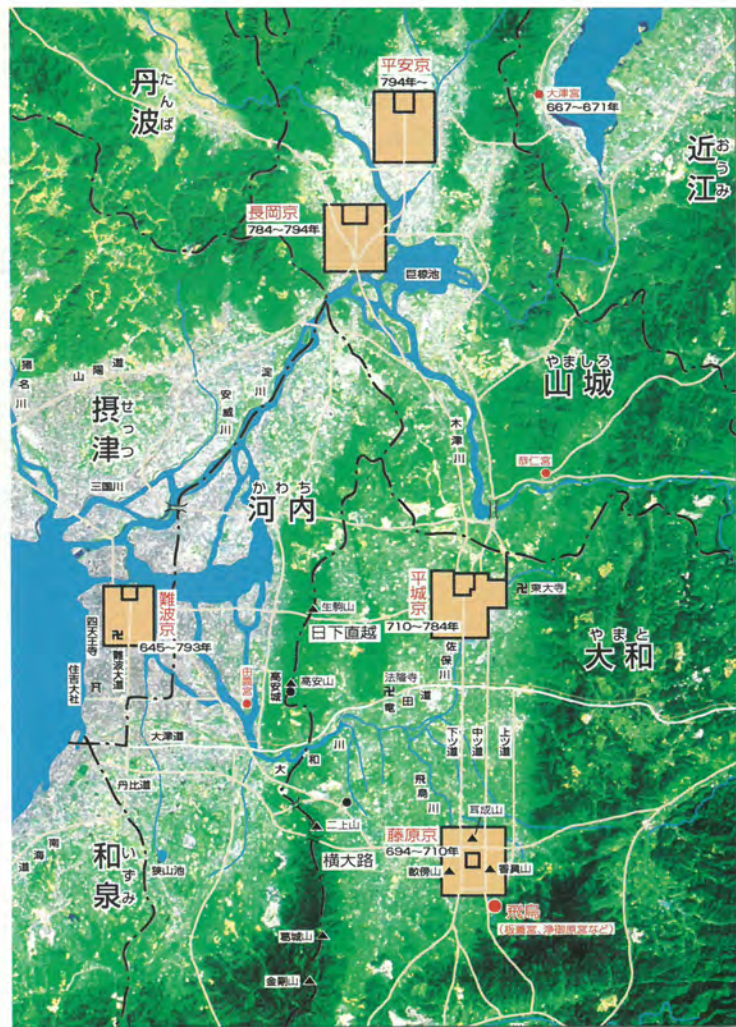
これは、大極殿の中のような様子です。柱の太さや肌ざわり、天井の高さをよく見てみましょう。役人たちの服装も観察してみましょう。

難波宮は上町台地の上に作られた都で、天皇の宮殿になっていました。最初は7世紀の中ごろ、「大化の改新」のころで、「前期難波宮」と呼ばれています。これは、日本で最初の、本格的な中国風の宮殿でした。また、2度目は、8世紀の中ごろの聖武天皇の時代で、「後期難波宮」と呼ばれています。ここでは、コンピュータを使った映像で、後期難波宮の宮廷儀礼の様子が再現されています。



古代の町 難波の暮らし

難波は瀬戸内海を行きかう船の玄関口でした。海を通過して、日本国内だけではなく、朝鮮半島や中国大陸からもさまざまな人や物が難波の町に集まり、国際貿易港として、栄えました。



▲ 古代の都

てんじぶつ みに なにわのみや
展示物を見て、難波宮の
いち おお 位置や大きさをたしかめて
みよう。



古代船「なみはや」

「船形はにわ」をもとに復元されました。
樹齢650年のアメリカ産の松の丸太をくりぬき、
横板を積み上げて作られました。完成後、大阪の
天保山から韓国の釜山まで、35日の航海をしました。

船形はにわ ▶

平野区の長原から

見つかった「なみはや」のモデル。

長さ128.5cm、幅26.5cm、高さ36.0cm

あります。



復元された古墳時代の大型倉庫

はにわを参考にして、なるべく昔と同じ材料と作り方で建てられました。



法円坂倉庫群と難波堀江 (イメージ図) ▶

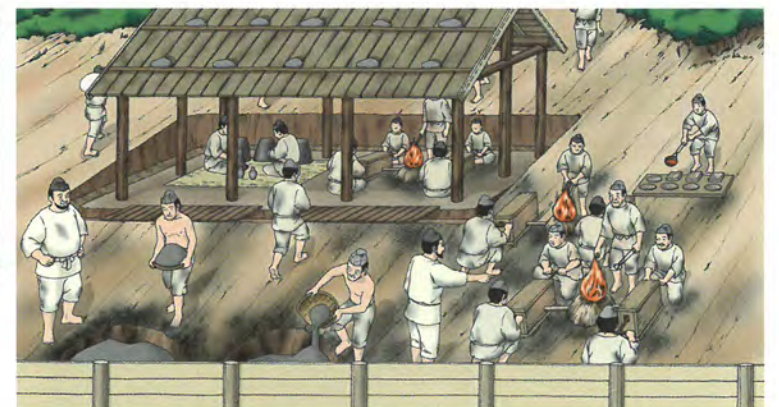
5世紀後半の法円坂のあたりには、上の写真のような倉庫が16棟も建っていました。これらの倉庫には、各地から運ばれてくる特産品や武器などを入れていました。



難波の市 (イメージ図)

難波の市は四天王寺の北方にあり、難波宮の人たちだけでなく、周辺の地域の人たちもやってきて、物の売り買いをしました。(絵に描かれているのは、以前盗まれた仏さまの絵が市で見つかったところです。)

どんなものが作られたり、
売られたりしていたのかしら？



前期難波宮のかじ工房 (イメージ図)

前期難波宮の南西となり合うところで、金属製品が生産されていました。

なにわひとびと 難波の人々 つか が使った物

こんど なにわ まち ひと つか
今度は、難波の町の人たちが使
ていた物をさがしてみましよう。
しゅつどひん なか ちょうせんはんとう
出土品の中には、朝鮮半島から
はこ 運ばれてきた物や、日本の他の
ちいき はこ なにわ
地域から運ばれてきたもの、難波
まち つく
の町で作られたものなどが見つ
かっています。

てんじぶつ
展示物を見たり、コンピュータを
つか
使ったりして、しらべてみよう。



▲ 奈良時代の難波の町の人たちが使った土器

てんのうじく み きんぞくせいひん
▼ 天王寺区で見つかった金属製品



ふほんせん
▼ 富本銭
ふほんせん てんむてんのう じだい ねん
富本銭は、天武天皇の時代（672～686年）
つく にほんさいこ どうせん かへい
に作られた日本最古の銅銭（貨幣）です。



▲ 和同開珎の枝銭

いがた と どうなが こ つか た あと
鑄型に溶かした銅を流し込み、固まった後
に取り出すと木の枝のような状態になるの
で、枝銭と呼ばれています。使う時は切り
はなしてしゅうい をみがい て どうせん かんせい
はなして周囲をみがい て銅銭を完成させま
した。

なにわのみや ほ 難波宮を掘る

なにわのみや なまえ あすか ならじだい か
難波宮の名前は、飛鳥・奈良時代に書かれた
きろく で なにわのみや
記録に出ています。しかし、難波宮がどこにあっ
たのかは、なが あいだ
長い間わかりませんでした。

れきしがくしゃ おおさかしりつだいがく きょうじゆ やまね
歴史学者で大阪市立大学の教授だった山根
とくたろうせんせい ほうえんざか はっけん みる
徳太郎先生は、法円坂で発見された古いかわらが
なにわのみや かんが しょうわ ねん ねん
難波宮のものであると考え、昭和29年（1954年）

に難波宮の発掘調査を始めました。

さいしよ おも はくつちようさ すす
最初はなかなか思うように発掘調査が進ま
くろう ながねん ちようさ
ず、苦労しましたが、長年にわたる調査によっ
て、ついになにわのみや せいかく ばしよ
て、ついに難波宮の正確な場所をつきとめる
ことに成功しました。

ご やまねせんせい なにわのみや いせき ほぞん
その後、山根先生は、難波宮の遺跡の保存
どりょく いま きゅうてん ちゅうしん ぶ やく
にも努力しました。今では、宮殿の中心部の約
まん しせきこうえん
9万㎡が史跡公園になっています。



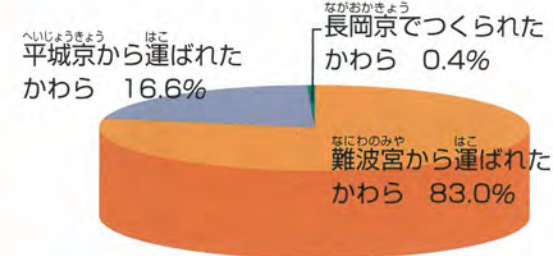
▲ 発掘現場の山根先生



「難波宮を掘る」のコー
ナーで、山根先生
について、もっとく
わしく調べてみよう。
発掘調査について興味
のある人は、8階の
「歴史を掘る」へ行っ
てみよう。

なにわのみや 難波宮はどこへいったの？

こうきなにわのみや きょうとふ ながおかきょう ちょうどう むね に こうぞう
後期難波宮と京都府の長岡京は、どちらも朝堂が8棟あり、似た構造
をしています。また、ながおかきょう たてものあと なにわのみや かすおお
見つかっています。これらのことから、難波宮の建物は長岡に運ばれ、
ながおかきょう つく さいりよう かんが
長岡京を造るのに再利用されたと考えられています。



ちょうどういん だいごくでん きゅうてん
朝堂院は、大極殿とともに、宮殿
の中心施設でした。儀式に使わ
れ、せいそう しんか さんれつ
た。

